

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：37304

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23357

研究課題名（和文）多民族社会における他者の包摂と国家制度再編：移民・難民と教育の役割

研究課題名（英文）Inclusion of Others in Multiethnic Society and Reorganizing of State Institutions：The Role of Education For Immigrants and Refugees

研究代表者

金子 奈央（KANEKO, NAO）

長崎外国語大学・外国語学部・特別任用講師

研究者番号：60761088

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はマレーシアのサバ州を調査対象とし、移民および難民コミュニティがアクセスしている教育の実態を、現地調査を通して明らかにすることを試みた。サバ州を含めた周縁まで中央集権的な国民教育制度は行き渡り、国民教育を受けられる対象の明確化（国民の線引き）が進んだ。その結果、2000年代半ばからサバ社会の重要な構成員でありながら「マレーシア国民でない人たち」の国民教育制度へのアクセスが困難になったことで、移民や難民の子どもたちを対象とした教育の場が国民教育制度外で発展した。社会の重要な構成員である彼らが持つステータスが複雑かつ混淆であることが、これらの教育プログラムおよび担い手の多様性に繋がっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マレーシアのサバ州は、社会の重要な構成員として移民・難民など「マレーシア国民でない人たち」を包摂し、その時代時代に置かれている状況を踏まえ常に社会を（再）構築しながら長年社会づくりをしてきた。2000年代以降は、サバ社会とマレーシアとの関係（連邦-州関係）や、サバ社会と移民、難民の関係が大きく変化し、またマレーシア国民の明確化が進んだことで、より「ナショナル」な仕組みの中で、流動性や混淆性の高い社会を統合していくのか、その動態を最も「ナショナル」な制度としての特徴の強い教育から考察したことは、寛容と安定を両立した社会づくりのひとつのモデルケースを提示するという意味で社会的意義のある研究である。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to examine dynamics of education for immigrant and refugee communities in Sabah, Malaysia through field work. It argues that the national education system in Malaysia has not included non-Malaysian citizens especially immigrant and refugee from Indonesia and Philippines since the mid-2000 and alternative and non-formal education for them have developed outside the national education system. Due to the mixture and complexity of the status of "foreigners" in Sabah society, their educational programs and actors are very diverse.

研究分野：地域研究 比較教育学

キーワード：移民 難民 公教育 インフォーマル教育 社会的包摂 マレーシア 外国人 多民族社会

1. 研究開始当初の背景

年々増え続ける移民や難民に対し、受け入れ側が彼らを「よそ者」としてその境界線を強調し排除することで社会的安定を取り戻そうとする動きがある。このように安定を求めて不寛容となる世界情勢の中で、移民や難民を包摂した社会統合は受け入れ側社会にとって大きな挑戦となっている。本研究は上記のような世界情勢に対する問題意識に基づき、フィリピンやインドネシアからの移民や難民を包摂するかたちで長年社会づくりがなされてきたマレーシアサバ州に焦点を当て、移民や難民を包摂した国家制度の再編と新しい「寛容」な社会モデルについて教育から分析する。

2. 研究の目的

多民族社会マレーシア、特に移民・難民を包摂するかたちで長年社会づくりがなされてきたサバ州をモデルケースとして取り上げ、移民・難民を包摂した国家制度の再編と新しい「寛容」な社会モデルを教育から明らかにする。

3. 研究の方法

文献、資料調査および現地調査(教育現場の参与観察とインタビュー調査)を行い、以下の課題に取り組む。

- 課題 サバ社会における移民・難民の包摂と排除の歴史の変遷を明らかにする
- 課題 サバ州の公教育制度における移民および難民の受け入れ方針について、その歴史的な展開を明らかにする
- 課題 移民および難民コミュニティが主体的にアクセスしているノンフォーマル教育の実態について明らかにすることで、国家および州と移民・難民社会との関係を明らかにする。

4. 研究成果

資料、文献調査および現地調査によって、以下のことが明らかとなった。

サバ州は、歴史的にも、現在はフィリピンやインドネシアとなっている近隣地域との関係性は深く、人の出入りも盛んで流動性の高い社会である。一方で、マレーシアという国家におけるサバ州の位置づけは、その歴史的経緯や地理的条件などからみても長らく周縁であったが、マレーシア結成から半世紀以上の時を経て州と連邦(国)との関係が深まるにつれ、周縁の地であるサバ州の国境地域(周縁の周縁)まで国家制度が浸透した。教育においても、中央集権的な国民教育制度はサバの国境地域まで行き渡っており、教育省の管理により半島部から教員が派遣され、教育省主導の就学支援が実施され、教室のレイアウトも他のマレーシアの公立学校と同様のものである。このように中央集権的な国民教育制度がサバ州全土に浸透することで、これを受けられる対象、つまり教育において「マレーシア国民」の範囲の明確化が進んだ。その結果、2000年代半ばからサバ社会の重要な構成員でありながら「マレーシア国民でない人たち」の国民教育制

度へのアクセスが困難になったことで、移民や難民の子どもたちを対象とした教育の場が国民教育制度外で発展した。

ただし、これにより教育が「国民のための国民教育」と「外国人のためのインフォーマル教育」に明確に二分され、もともと混淆性の高かったサバ社会が「マレーシア人」か「マレーシア人ではないか」で二分されつつあるという結論への繋がるわけではない。サバ社会には「外国人労働者としてサバに移住した後に、イレギュラーなプロセスでマレーシア国民の資格を得た者」「マレーシア結成時からマレーシアの領域内で生活しているがマレーシア国民の資格を得られていない者」など、サバの流動性および混淆性の高さから「どちら側でもない人たち」が多く含まれる。彼らがどこに所属し、どのような制度枠組みに基づいて生活を営むかということについても多様な選択肢があり、教育においても、彼らに対してどのような形で教育の機会を提供するか、国家の下に存在する機関（教育省、公立学校、イスラム教育機関、国家安全保障会議など）も含まれる形でその検討が続けられている。

インドネシアからの移民については、これまではサバ州で生まれた後、その後の人生もサバで過ごす者が多かったが、インドネシアの経済的發展に伴い、インドネシアへの「再移住」を選択肢とする者が増加傾向にあり、サバ州内のインドネシア人労働者の数も減少傾向にある。現在のインドネシアとマレーシアの関係を考えれば、今後もこのような選択をする者が増加することが予想される。これまでは「マレーシアの国民教育の対象外である移民家族の子どもたちに、サバ社会の構成員として必要となる基本的な教育の機会をどのように提供するか」がサバ州における移民および難民を対象とした教育の主なる課題であったが、今後はインドネシアとより連携をとる形で「再移住先の母国で生活を送るために必要な教育」の提供や開発について検討していく必要が出てきている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鴨川明子 金子奈央	4. 巻 60
2. 論文標題 国境地域に行き届く国民教育制度：マレーシア（サバ州） インドネシア（北カリマンタン州）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 148-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子奈央	4. 巻 101
2. 論文標題 「千一問」にみるムスリムの異文化理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『カラム』の時代 ; マレー・イスラム世界の社会変容と女性 CIRAS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子奈央	4. 巻 21
2. 論文標題 「サバ社会の発展と教育」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『マレーシア研究』	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 金子奈央
2. 発表標題 「多民族国家マレーシアの事例」
3. 学会等名 長崎外国語大学新長崎学研究センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子奈央
2. 発表標題 ラウンドテーブル「Wawasan2020とマレーシア社会の変化 複眼的視座からの検証」においてサバ社会からの報告を担当
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関